

535, 672

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19)世界知的所有権機関
国際事務局



(43)国際公開日
2004年6月3日 (03.06.2004)

PCT

(10)国際公開番号
WO 2004/045602 A1

- (51)国際特許分類⁷: A61K 31/351, 9/06, 9/10, (72)発明者: および
A61P 17/00, 35/00, 43/00, C07D 309/32 (75)発明者/出願人(米国についてのみ): 小林 孝志
(KOBAYASHI,Takashi) [JP/JP]; 〒260-0021 千葉県 千
葉市 中央区新宿1丁目8番10号 千葉中央サニーコー
ト901 Chiba (JP).
- (21)国際出願番号: PCT/JP2003/012898 (22)国際出願日: 2003年10月8日 (08.10.2003)
- (25)国際出願の言語: 日本語 (26)国際公開の言語: 日本語 (81)指定国(国内): US.
- (30)優先権データ:
特願2002-336867 2002年11月20日 (20.11.2002) JP
特願2003-136738 2003年5月15日 (15.05.2003) JP
特願2003-286386 2003年8月5日 (05.08.2003) JP
- (71)出願人(米国を除く全ての指定国について): 独立行政法人 科学技術振興機構 (JAPAN SCIENCE AND TECHNOLOGY AGENCY) [JP/JP]; 〒332-0012 埼玉県 川口市 本町4丁目1番8号 Saitama (JP).
- (84)指定国(広域): ヨーロッパ特許 (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC, NL, PT, RO, SE, SI, SK, TR).

添付公開書類:
— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイドスノート」を参照。

WO 2004/045602 A1

(54) Title: DRUG FOR INHIBITING PRODUCTION OF MATRIX METALLOPROTEASE-9

(54)発明の名称: マトリックスメタロプロテアーゼ-9の産生を阻害するための薬剤

(57) Abstract: A drug for inhibiting the production of matrix metalloprotease-9 which contains leptomycin B or its derivative as the active ingredient. This drug can specifically inhibit the production of MMP-9 compared with MMP-2. Furthermore, it has an effect of inhibiting the production of MMP-9 even under stimulating the differentiation by adding calcium at a high concentration or adding TGF- β , and under stimulating for inducing inflammation by adding TNF- α or adding IL-1 α .

(57)要約: レプトマイシンB又はその誘導体を有効成分として含有する、マトリックスメタロプロテアーゼ-9の産生を阻害するための薬剤は、MMP-2と比較してMMP-9の産生を特異的に阻害でき、さらには、高濃度のカルシウムを添加することによる刺激又はTGF- β を添加することによる刺激などの分化刺激を行う条件下、及びTNF- α を添加することによる刺激又はIL-1 α を添加することによる刺激などの炎症惹起刺激を行う条件下においてもMMP-9の産生を阻害することができるという効果を奏するものである。

明細書

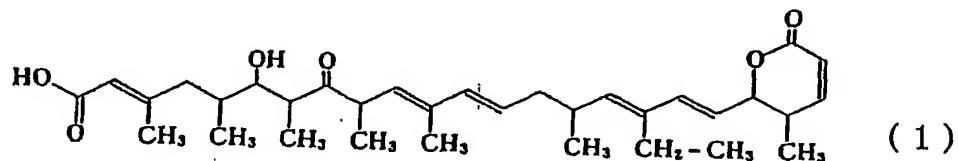
マトリックスメタロプロテアーゼー9の産生を阻害するための薬剤

5 技術分野

本発明は、マトリックスメタロプロテアーゼー9の産生を阻害するための薬剤に関するものである。

背景技術

10 下記式(1)：



15 で示されるレプトマイシンB (Leptomyycin B又はLMB) は、本来、抗カビ抗生物質として発見されたが、後に、該レプトマイシンBの誘導体も同様の抗カビ活性があることが判明し、現在では、特に抗癌剤として注目されている。

20 特開平5-13133号公報には、レプトマイシンBを有効成分とし、皮下注射、静脈内注射、筋肉内注射などの非経口投与又は経口投与法により投与される抗腫瘍剤が記載されている。該抗腫瘍剤によれば、マウスに移植したP388細胞、ルイス・ランダ・カルチノーマ細胞、B16メラノーマ細胞及びエーリッヒ・カルチノーマ細胞などに強い抗腫瘍作用を示すことができるが、レプトマイシンBがいかにして腫瘍細胞に作用するのかが不明であるため、抗腫瘍剤以外の用途の開拓は行われて

いなかった。

マトリックスメタロプロテアーゼ (MMPs) は、細胞外マトリックス蛋白を主要な基質とする一群の金属プロテアーゼの総称である。MMPs は生体内組織代謝において重要な役割を果たしている。なかでもマトリックスメタロプロテアーゼ-9 (MMP-9) はゼラチナーゼとしてゼラチン成分を分解するのみではなく、別名 IV型コラゲナーゼとも言われるよう、各種コラーゲン、エラスチン、ファイブロネクチンなど細胞外マトリックス成分を分解し、さらには腫瘍成長因子 (TGF- β) や腫瘍壞死因子 (TNF- α) を活性化する可能性が示してきた。

最近、人為的に MMP-9 を欠如させたマウスについての検討、及び MMP-9 の発現をモニターしたマウスについての検討から、特に周囲の炎症性細胞から浸潤した MMP-9 が、癌の浸潤と転移を引き起こす要因であり、且つ水疱症に際して水疱形成を引き起こす要因であること、表皮由来の MMP-9 が紫外線照射時のアポトーシスに関わっており、紫外線皮膚炎に関わっていることが明らかになっている。また、MMP-9 が創傷治癒の遅延をもたらすことも明らかにされている。さらには、MMP-9 が血管新生をもたらすことも明らかになっている。加えて、上記された水疱症、紫外線皮膚炎、及び創傷治癒の遅延は、皮膚の炎症性疾患であるため、これらの皮膚の炎症性疾患に関わる MMP-9 は、湿疹皮膚炎に関わっていると考えられる。

表皮由来の MMP-9 と表皮の角化との関係については、本発明者により、好中球由来 MMP-9 の分離、精製を行い、MMP-9 に対する单クローニング抗体を作成し、同抗体により皮膚組織における MMP-9 の

局在化について検討したところ、表皮角化組織に MMP - 9 が局在することを確認した。さらに、培養した表皮角化細胞を用いて、角化細胞への分化刺激を行った際に、MMP - 2 と比較して、MMP - 9 の方がより特異的に発現が亢進されることを確認した。この発現の亢進に関わる
5 転写因子結合遺伝子領域として、従来から知られる T P A r e s p o n s i v e e l e m e n t に加えて角化のマーカーである i n v o l u c r i n と共に共通な遺伝子プロモーター領域である K R E - M 9 が、M
10 MMP - 9 プロモーター中に存在することを発見したが、該発見は、角化細胞への分化刺激を行った際の MMP - 9 の特異的な発現の亢進を支持するものである。元来、角化は、表皮角化細胞のプログラムされた細胞死であり、アポトーシスの 1 種と考えられ、かかるアポトーシス、特に表皮細胞のアポトーシスに際して、炎症の一症状として、過角化すなわち角化異常症の臨床症状を呈することが多いが、本発明者の研究により角化細胞への分化刺激を行った際に MMP - 9 が特異的に発現亢進される
15 ことが判明したため、かかる表皮の角化におけるアポトーシスに際しての角化異常症についても MMP - 9 が関与している可能性が示唆された。

20 このように、MMP - 9 は、皮膚科領域においても、癌の浸潤と転移、水疱症における水疱形成、血管新生、創傷治癒の遅延、湿疹皮膚炎、紫外線皮膚炎、及び角化異常症等の皮膚の炎症性疾患に関わるものである。

25 よって、MMP - 9 の產生を阻害することにより、癌の浸潤と転移、並びに水疱症、血管新生、創傷治癒の遅延、湿疹皮膚炎、及び紫外線皮膚炎、角化異常症等の種々の皮膚の炎症性疾患の改善が期待される。

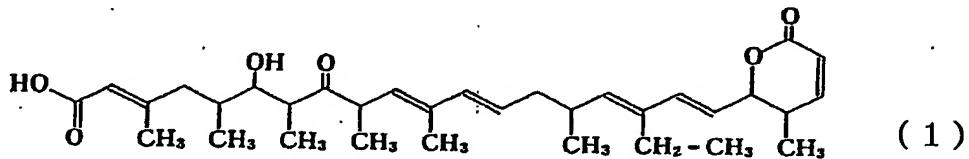
従って、本発明は、MMP-9の産生を阻害する新規な薬剤を提供することをその課題とする。

発明の開示

5 かかる実情において、本発明者は鋭意検討を行なった結果、レプトマイシンBが、培養表皮角化細胞に由来するMMP-9の産生を、MMP-2と比較して、特異的に阻害できること、さらには、高濃度のカルシウムを添加することによる刺激又はTGF- β を添加することによる刺激などの分化刺激を行う条件下、及びTNF- α を添加することによる刺激又はIL-1 α を添加することによる刺激などの炎症惹起刺激を行う条件下においてもMMP-9の産生を阻害できることを見出し、本発明を完成するに至った。

すなわち、本発明(1)は、下記式(1)：

15



で示されるレプトマイシンB又はその誘導体を有効成分として含有する、
20 マトリックスメタロプロテアーゼー9の産生を阻害するための薬剤を提
供するものである。かかる構成とすることにより、MMP-9の産生を、
MMP-2と比較して、特異的に阻害でき、さらには、高濃度のカルシ
ウムを添加することによる刺激又はTGF- β を添加することによる刺
激などの分化刺激を行う条件下、及びTNF- α を添加することによる
25 刺激又はIL-1 α を添加することによる刺激などの炎症惹起刺激を行
う条件下においてもMMP-9の産生を阻害することができるという効

果を奏するものである。

また、本発明（2）は、マトリックスメタロプロテアーゼー9関連皮膚疾患の予防薬又は治療薬である前記発明（1）記載の薬剤を提供するものである。かかる構成とすることにより、上記発明（1）の奏する効果に加えて、MMP-9関連皮膚疾患の予防又は治療を効果的に行うことができるという効果を奏する。

また、本発明（3）は、前記予防薬又は治療薬が、その投与形態が皮膚外用剤である上記発明（2）記載の薬剤を提供するものである。かかる構成とすることにより、上記発明（2）の奏する効果に加えて、MMP-9関連皮膚疾患の予防効果又は治療効果を一層向上させることができるという効果を奏する。

15 図面の簡単な説明

図1の（A）は無刺激下における、（B）は高濃度カルシウム刺激下における、（C）はTGF- β による刺激下における、（D）はTNF- α による刺激下における、（E）はIL-1 α による刺激下における、ヒト表皮角化細胞のMMP-2及びMMP-9の產生に及ぼすLMBの影響を示す図である。

図2は、ヒト表皮角化細胞のMMP-9のmRNA及びGAPDHのmRNAの產生に及ぼすLMBの影響を示す図である。

図3は、（A）及び（B）は、KRE-M9を含むベクター1をHFKsに遺伝子導入した場合、及びKRE-M9を含まないベクター2をHFKsに遺伝子導入した場合のルシフェラーゼアッセイによるヒト表皮角化細胞のMMP-9の総転写活性の測定結果を示す図であり、（C）

は、KRE-M9配列及びTRE配列を含有する塩基配列を示す図である。

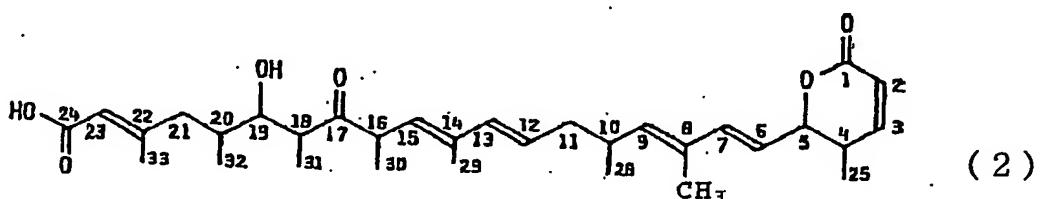
図4は、(A)及び(B)は、塩基配列1及び2を用いた場合、並びに塩基配列3～6を用いた場合のルシフェラーゼアッセイによるヒト表皮角化細胞のMMP-9の総転写活性の測定結果を示す図であり、(C)は、KRE-M9配列及び配列番号5に示すKRE-M9配列の4塩基置換配列をプローブとして用いたヒトケラチノサイト核タンパク質によるゲルシフトアッセイの結果を示す図である。

図5は、マウスA1～マウスE1から採取し染色した皮膚の切片、及びマウスA2～マウスE2から採取し染色した皮膚の切片を光学顕微鏡で観察した結果を示す図である。

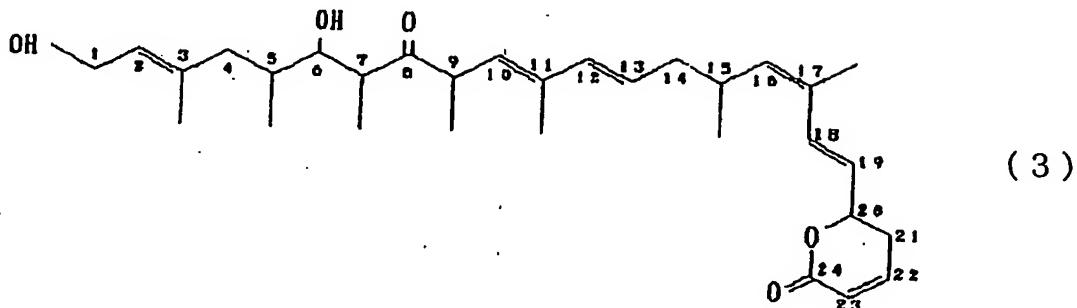
発明を実施するための最良の形態

本発明のMMP-9を阻害するための薬剤は、LMB又はその誘導体を有効成分として含有する。LMBは、放線菌に属するストレプトマイセス属に属するLMB生産菌が生産する抗生物質であり、〔ザ・ジャーナル・オブ・アンティバイオティックス(The Journal of Antibiotics)、1983年、第36巻、639～650頁〕に記載される方法に従って、培養したLMB生産菌から分離精製して得ることができる。

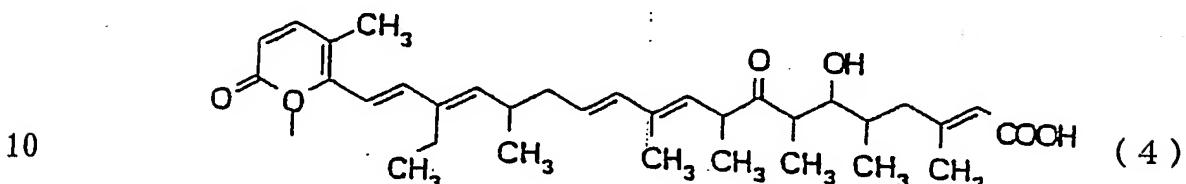
また、LMBの誘導体については、下記式(2)；



で表されるレプトマイシンA、下記式(3)；



で表される物質S-59917a、及び下記式(4)；



で表されるエラクトシンからなる群より選ばれるLMBの誘導体を例示することができる。レプトマイシンAは、上記したLMB生産菌が生産する抗生物質であり、〔ザ・ジャーナル・オブ・アンティバイオティックス(The Journal of Antibiotics)、1983年、第36巻、639～650頁〕に記載される方法に従って、培養した前記LMB生産菌から分離精製して得ることができ、また、物質S-59917aは、ストレプトマイセス属に属する物質S-59917a生産菌が生産する抗生物質であり、特開平5-39283号公報に記載されるように、培養したS-59917a生産菌から分離精製して得ができる。

本発明のMMP-9の產生を阻害するための薬剤は、MMP-9関連皮膚疾患の予防薬又は治療薬として用いることができるが、MMP-9関連皮膚疾患としては、癌の浸潤と転移、並びに水疱症、血管新生、創傷治癒の遅延、湿疹皮膚炎、紫外線皮膚炎、又は角化異常症等を挙げる

ことができ、好ましくは、水疱症、血管新生、創傷治癒の遅延、湿疹皮膚炎、紫外線皮膚炎、又は角化異常症を挙げることができ、特に好ましくは、水疱症、創傷治癒の遅延、湿疹皮膚炎、紫外線皮膚炎、又は角化異常症を挙げができる。また、本発明のMMP-9の産生を阻害するための薬剤は、MMP-9の産生を抑制するものであるが、TNF- α 、IL-1 α などのサイトカインにより細胞に炎症反応を惹起させ、MMP-9産生を誘導する場合においても、MMP-9の産生が阻害されると好ましく、この場合、水疱症、血管新生、創傷治癒の遅延、湿疹皮膚炎などのMMP-9関連皮膚疾患の治療薬又は予防薬、あるいは水疱症、創傷治癒の遅延、湿疹皮膚炎などのMMP-9関連皮膚疾患の治療薬又は予防薬として有効である。さらには、高濃度のカルシウム、TGF- β を添加することにより分化刺激を行うことにより細胞に角化などの分化を誘導し、MMP-9産生を誘導する場合においても、MMP-9の産生が阻害されると好ましく、この場合、紫外線皮膚炎、角化異常症などのMMP-9関連皮膚疾患の治療薬又は予防薬として有効である。

本発明の薬剤を医薬品として使用する際には、予防又は治療上有効な量のレプトマイシンBまたはその誘導体が、製薬学的に許容できる担体又は希釈剤とともに製剤化されるとよい。その他にも、結合剤、吸収促進剤、潤沢剤、乳化剤、界面活性剤、酸化防止剤、防腐剤、着色剤、香料、甘味料などを添加してもよい。医薬製剤の剤形としては、顆粒剤、細粒剤、錠剤、カプセル剤、丸剤、軟膏、ゲル、ペースト、クリーム、噴霧剤、溶液剤、懸濁液剤などを挙げることができ、その投与形態としては、経口投与の他、注射、外用などの非経口投与など種々の投与形態を挙げができる。

本発明の薬剤は、その投与形態が皮膚外用剤である治療薬又は予防薬であると好ましく、皮膚に塗布されて使用される皮膚外用剤であると特に好ましい。本発明の薬剤を皮膚外用剤とするには、LMB又はその誘導体に加えて通常薬用外用剤又は化粧料に配合される成分、例えば紫外線吸収剤、油性成分、保湿剤、増粘剤、乳化剤、防腐剤、粉体、乳化安定剤、pH調整剤、香料、アルコール、水等が配合できる。ここで紫外線吸収剤としては、ジベンゾイルメタン誘導体、ケイ皮酸エステル誘導体、ベンゾフェノン誘導体、p-アミノ安息香酸誘導体等の有機系紫外線吸収剤、及び亜鉛華、雲母、雲母チタン、酸化チタン、酸化マグネシウム、酸化ジルコニウム等の無機系紫外線吸収剤等が挙げられる。

また、油性成分としては、流動パラフィン、ワセリン、パラフィンワックス、スクワラン、ミツロウ、カルナバロウ、オリーブ油、ラノリン、高級アルコール、脂肪酸、高級アルコールと脂肪酸の合成エステル油、シリコーン油、フッ素系油剤等が挙げられる。

また、皮膚外用剤中へのレプトマイシンBまたはその誘導体の配合量は、特に制限されないが、0.0001～50重量%が好ましく、0.001～20重量%が特に好ましい。本発明の皮膚外用剤は、軟膏、クリーム、乳液、ローション、パック、浴用剤等、皮膚外用剤として用いるものであればいずれでもよく、剤形は特に問わない。

(実施例)

以下、実施例を挙げて本発明を更に具体的に説明するが、これは単に例示であって、本発明を制限するものではない。

実施例 1

MMP-9の產生が、LMBによって阻害されることを検証するため
に以下の実験を行った。

5 <ヒト表皮角化細胞の培養>

新生児の包皮を、4°Cで、カゼイン分解活性が25.0 caseinolytic units/mlであるディスパーぜで16時間処理した。鉗子を用いて、真皮から表皮をはぎとった後、表皮を0.05%トリプシンで5分間処理した。分離させたヒト包皮角化細胞(HFKs)を、keratinocyte-SFM培地(Invitrogen社製)を有するプレートにて37°Cで温置して、3代にわたって継代培養した。次いで、ヒト包皮角化細胞(HFKs)を3代にわたって継代培養して得られた4つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ0nM、0.4nM、2nM、10nMとなるようにLMBを添加し、さらに37°Cで24時間温置した。その後、該4つのプレートからkeratinocyte-SFM培地の4種のならし培地を収集して、以下のゼラチンザイモグラフィー法によるMMP-2及びMMP-9の検出において用いるまで、-30°Cで貯蔵しておいた。

20 <ゼラチンザイモグラフィー法によるMMP-2及びMMP-9の検出>

ゼラチンザイモグラフィー法によるMMP-2及びMMP-9の検出を行うのに先立ち、<ヒト表皮角化細胞の培養>において収集した4種のならし培地を全て35°Cで1時間温置した。次いで、Tris-HClを0.05M、CaCl₂を5mM、SDS(sodium dodecyl-sulfate)を1%、glycerolを5%それぞれ

含有する pH 7.4 の溶液に前記ならし培地を溶解させて、ゼラチンザイモグラフィー法に用いる試料とした。該試料を、0.5%のゼラチンを含んだポリアクリルアミドゲル7.5%を用いて SDS-PAGE 法により MMP-2 及び MMP-9 を分離した。SDS-PAGE 法による分離の後、分離ゲルを Triton X-100 を 2.5% 含有する溶液で 1 時間洗浄し、SDS を除去した。分離ゲルにおいて分離された MMP-2 及び MMP-9 に分離ゲル中のゼラチンを分解させるために、反応用緩衝液（標準条件 0.05M Tris-HCl (pH 7.4) / 0.15M NaCl / 5mM CaCl₂ / 0.02% NaN₃）中において 35°C で所定の時間分離ゲルを温置した。分離ゲルの染色は、Amidoblack B-10 を 0.1% 含有する染色液を用いて行い、脱色は、酢酸 10 体積%、及びメタノール 30 体積% を含有する脱色液を用いて行った。4 種のならし培地中の MMP-2 及び MMP-9 の検出結果を図 1 (A) に示す。

15

実施例 2

ヒト表皮角化細胞の培養において、ヒト包皮角化細胞 (HFKs) を 3 代にわたって継代培養して得られた 4 つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ 0 nM、0.4 nM、2 nM、10 nM となるように LMB を添加する代わりに、ヒト包皮角化細胞 (HFKs) を 3 代にわたって継代培養して得られた 4 つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ 0 nM、0.4 nM、2 nM、10 nM となるように LMB を添加するとともに、Ca⁺ の培地に対する濃度が 4 つ全て 1.5 mM となるように塩化カルシウム水溶液を添加した以外は、実施例 1 と同様の方法でヒト表皮角化細胞の培養、及びゼラチンザイモグラフィー法による MMP-2 及び MMP-9 の検出を行った。結果を図 1 (B) に示す。

実施例 3

ヒト表皮角化細胞の培養において、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を3代にわたって継代培養して得られた4つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ0 nM、0.4 nM、2 nM、10 nMとなるようにLM_Bを添加する代わりに、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を3代にわたって継代培養して得られた4つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ0 nM、0.4 nM、2 nM、10 nMとなるようにLM_Bを添加するとともに、TGF- β の培地に対する濃度が4つ全て1 ng/mlとなるようにTGF- β を添加した以外は、実施例1と同様の方法でヒト表皮角化細胞の培養、及びゼラチンザイモグラフィー法によるMMP-2及びMMP-9の検出を行った。結果を図1（C）に示す。

実施例 4

ヒト表皮角化細胞の培養において、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を3代にわたって継代培養して得られた4つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ0 nM、0.4 nM、2 nM、10 nMとなるようにLM_Bを添加する代わりに、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を3代にわたって継代培養して得られた4つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ0 nM、0.4 nM、2 nM、10 nMとなるようにLM_Bを添加するとともに、TNF- α の培地に対する濃度が4つ全て10 ng/mlとなるようにTNF- α を添加した以外は、実施例1と同様の方法でヒト表皮角化細胞の培養、及びゼラチンザイモグラフィー法によるMMP-2及びMMP-9の検出を行った。結果を図1（D）に示す。

25

実施例 5

ヒト表皮角化細胞の培養において、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を
3代にわたって継代培養して得られた4つのプレートに、培地に対する
濃度がそれぞれ0nM、0.4nM、2nM、10nMとなるようにL
MBを添加する代わりに、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を3代にわた
5 って継代培養して得られた4つのプレートに、培地に対する濃度がそれ
ぞれ0nM、0.4nM、2nM、10nMとなるようにLMBを添加
するとともに、IL-1 α の培地に対する濃度が4つ全て10⁻¹⁰Mと
なるようにIL-1 α を添加した以外は、実施例1と同様の方法でヒト
表皮角化細胞の培養、及びゼラチンザイモグラフィー法によるMMP-
10 2及びMMP-9の検出を行った。結果を図1（E）に示す。

図1（A）に示す実施例1の結果から、無刺激下においては、培地に
対するLMBの濃度が2nM以上となると、MMP-9の産生が阻害さ
れていることがわかる。また、図1（B）及び図1（C）に示す実施例
15 2及び3の結果から、高濃度カルシウム又はTGF- β による分化刺激
を行いMMP-9の産生が促進される条件下でも、培地に対するLMB
の濃度が2nM以上となると、MMP-9の産生が阻害されていること
がわかる。さらに、図1（D）及び図1（E）に示す実施例4及び5の
結果から、TNF- α 又はIL-1 α による炎症惹起刺激を行いMMP
20 -9の産生が促進される条件下でも、培地に対するLMBの濃度が2n
M以上となると、MMP-9の産生が阻害されていることがわかる。図
1の結果から、LMBは、MMP-2と比較して、MMP-9の産生を
より特異的に阻害することがわかる。

25 実施例6

LMBの作用により、MMP-9のmRNAの産生が阻害されること、

すなわち、MMP-9の産生が阻害されることを検証するために以下の実験を行った。

<ヒト表皮角化細胞の培養>

5 新生児の包皮を、4°Cで、カゼイン分解活性が25.0 caseinolytic units/mlであるディスパーゼで16時間処理した。鉗子を用いて、真皮から表皮をはぎとった後、表皮を0.05%トリプシンで5分間処理した。分離させたヒト包皮角化細胞(HFKs)を、keratinocyte-SFM培地(Invitrogen社製)を有するプレートにて37°Cで温置して、3代にわたって継代培養した。次いで、ヒト包皮角化細胞(HFKs)を3代にわたって継代培養して得られた2つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ0nM、10nMとなるようにLMBを添加し、さらに37°Cで24時間温置した。

15

<RT-PCR法によるヒトMMP-9遺伝子のmRNA及びヒトGAPDH遺伝子のmRNAの検出>

培養したヒト包皮角化細胞(HFKs)からの全RNAの抽出は、Wachiらの方法(Wachi et al. (1995) FEBS Lett. 368, 215-219)に従って行い、抽出した全RNAは、1μg/mlの濃度の溶液として-80°Cで貯蔵した。RT-PCR法は、Takara RNA PCR kit(Takara社製)を用いて行った。ヒトMMP-9に対するcDNAの277塩基対を増幅するため、116~136塩基対に位置する5'末端に対しては、センスプライマー(配列番号:1)を、372~392塩基対に位置する3'末端に対してはアンチセンスプライマー(配列番号:2)を用いた。ヒ

トGAPDHに対するcDNAの478塩基対を增幅するために、547～566塩基対に位置する5'末端に対しては、センスプライマー（配列番号：3）を、1005～1024塩基対に位置する3'末端に対してはアンチセンスプライマー（配列番号：4）を用いた。RNAの逆転写は、42°Cで1時間温置することにより行った。逆転写して得られたcDNAのPCRにおける温置は、以下の温度プロファイルに従って行った。すなわち、1サイクルごとに、cDNAの変性を94°Cで2分間行い、プライマーのアニーリングを60°Cで30秒間行い、DNAポリメラーゼによるDNA鎖の合成を72°Cで1分間行った。30サイクル行った後得られた溶液を分取して、臭化エチジウムを含有するアガロースゲルを用いて電気泳動を行い、得られたバンドを紫外線下で観察した。結果を図2に示す。図2中、Sample 1が、培地に対するLMB濃度が0nMであった細胞を用いた結果を、Sample 2が、培地に対するLMB濃度が10nMであった細胞を用いた結果を示す。

15

実施例7

ヒト表皮角化細胞の培養において、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を3代にわたって継代培養して得られた2つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ0nM、10nMとなるようにLMBを添加する代わりに、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を3代にわたって継代培養して得られた2つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ0nM、10nMとなるようにLMBを添加するとともに、Ca⁺の培地に対する濃度が2つ全て1.5mMとなるように塩化カルシウム水溶液を添加した以外は、実施例6と同様の方法でヒト表皮角化細胞の培養、並びにRT-PCR法によるヒトMMP-9遺伝子のmRNA及びヒトGAPDH遺伝子のmRNAの検出を行った。結果を図2に示す。図2中、Sample 1

e 3 が、培地に対する LMB 濃度が 0 nM であった細胞を用いた結果を、 Sample 4 が、 培地に対する LMB 濃度が 10 nM であった細胞を用いた結果を示す。

5 実施例 8

ヒト表皮角化細胞の培養において、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を 3 代にわたって継代培養して得られた 2 つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ 0 nM、10 nM となるように LMB を添加する代わりに、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を 3 代にわたって継代培養して得られた 2 つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ 0 nM、10 nM となるように LMB を添加するとともに、 TGF- β が培地に対する濃度が 2 つ全て 1 ng/ml となるように TGF- β を添加した以外は、実施例 6 と同様の方法でヒト表皮角化細胞の培養、並びに RT-PCR 法によるヒト MMP-9 遺伝子の mRNA 及びヒト GAPDH 遺伝子の mRNA の検出を行った。結果を図 2 に示す。図 2 中、 Sample 5 が、培地に対する LMB 濃度が 0 nM であった細胞を用いた結果を、 Sample 6 が、培地に対する LMB 濃度が 10 nM であった細胞を用いた結果を示す。

20 実施例 9

ヒト表皮角化細胞の培養において、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を 3 代にわたって継代培養して得られた 2 つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ 0 nM、10 nM となるように LMB を添加する代わりに、ヒト包皮角化細胞（HFKs）を 3 代にわたって継代培養して得られた 2 つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ 0 nM、10 nM となるように LMB を添加するとともに、 TNF- α の培地に対する濃

度が2つ全て $10\text{ ng}/\text{ml}$ となるようにTNF- α を添加した以外は、実施例6と同様の方法でヒト表皮角化細胞の培養、並びにRT-PCR法によるヒトMMP-9遺伝子のmRNA及びヒトGAPDH遺伝子のmRNAの検出を行った。結果を図2に示す。図2中、Sample 7
5 が、培地に対するLMB濃度が 0 nM であった細胞を用いた結果を、Sample 8が、培地に対するLMB濃度が 10 nM であった細胞を用いた結果を示す。

実施例10

10 ヒト表皮角化細胞の培養において、ヒト包皮角化細胞(HFKs)を3代にわたって継代培養して得られた2つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ 0 nM 、 10 nM となるようにLMBを添加する代わりに、ヒト包皮角化細胞(HFKs)を3代にわたって継代培養して得られた2つのプレートに、培地に対する濃度がそれぞれ 0 nM 、 10 nM となるようにLMBを添加するとともに、IL-1 α の培地に対する濃度が2つ全て 10^{-10} M となるようにIL-1 α を添加した以外は、実施例6と同様の方法でヒト表皮角化細胞の培養、並びにRT-PCR法によるヒトMMP-9遺伝子のmRNA及びヒトGAPDH遺伝子のmRNAの検出を行った。結果を図2に示す。図2中、Sample 9が、
15 培地に対するLMB濃度が 0 nM であった細胞を用いた結果を、Sample 10が、培地に対するLMB濃度が 10 nM であった細胞を用いた結果を示す。

20 図2のSample 1及びSample 2で示される実施例6の結果から、無刺激下においては、培地に対するLMBの濃度が 10 nM である場合に、GAPDHと比較して、MMP-9の産生が阻害されている

ことがわかる。図2のSample 3及びSample 4で示される実施例7の結果から、高カルシウム刺激下においても、培地に対するLMBの濃度が10nMである場合に、GAPDHと比較して、MMP-9の産生が阻害されていることがわかる。図2のSample 5及びSample 6で示される実施例8の結果から、TGF- β による刺激下においても、培地に対するLMBの濃度が10nMである場合に、GAPDHと比較して、MMP-9の産生が阻害されていることがわかる。図2のSample 7及びSample 8で示される実施例9の結果から、TNF- α による刺激下においても、培地に対するLMBの濃度が10nMである場合に、GAPDHと比較して、MMP-9の産生が阻害されていることがわかる。図2のSample 9及びSample 10で示される実施例10の結果から、IL-1 α による刺激下においても、培地に対するLMBの濃度が10nMである場合に、GAPDHと比較して、MMP-9の産生が阻害されていることがわかる。以上の結果から、LMBの添加が、GAPDHと比較して、MMP-9の産生を阻害することが判明した。

実施例 11

LMBの作用によりMMP-9の産生が阻害されていることを検証するため、MMP-9遺伝子のpromoter配列のKRE-M9と、MMP-9の産生と、LMBとの関係を調べることを目的として以下の実験を行った。

<ヒト表皮角化細胞の培養>

新生児の包皮を、4°Cでカゼイン分解活性が25.0 caseinolytic units/mlであるディスパーザで16時間処理した。

鉗子を用いて、真皮から表皮をはぎとった後、表皮を 0.05% トリプシンで 5 分間処理した。分離させたヒト表皮角化細胞 (HFKs) を、0.09 mM の Ca⁺ を含有する keratinocytes-SFM 培地 (Life Technologies 社製) を有する 24 well 5 のプレートにて 37°C で温置して、3 代にわたって継代培養した。

<ルシフェラーゼアッセイ測定用のベクター調製>

Kobayashi らの方法 (Kobayashi et al. (2001) EMBO Rep. 2, 604-608) に従って、MMP-9 promoter 配列の KRE-M9 を含んだ -73 から +16 までの塩基配列、および KRE-M9 を含まない -5 6 から +16 までの塩基配列を、ルシフェラーゼ遺伝子を含有するルシフェラーゼ発現ベクターである pGL3-basic vector (Promega 社製) に、それぞれ挿入し、ベクター 1 及びベクター 2 を調製した。なお、KRE-M9 を含んだ -73 から +16 までの塩基配列を含有する塩基配列を、図 3 (C) に示す。

<遺伝子導入>

ベクター 1 及びベクター 2 と遺伝子導入用試薬である Fugene 6 (Roche 社製) とを用いて、DNA 濃度 3 μg / 1 ml のベクター 1 溶液及びベクター 2 溶液を調製した。次いで、<ヒト表皮角化細胞の培養> で得られた 24 well のプレートの HFKs 培養液のうち、12 well のプレートに対してベクター溶液 1 を、残りの 12 well のプレートに対してベクター溶液 2 を、いずれも 37°C で添加して遺伝子導入を行い、さらに、ベクター 1 溶液を添加して得られた 12 well のプレートのうち、6 well のプレートに対して LMB 10 nM 加え、6 well の LMB 添加プレート 1 とし、残りの 6 well

のプレートに対してはLMBを加えず、6 wellのLMB無添加プレート1とし、ベクター2溶液を添加して得られた12 wellのプレートのうち、6 wellのプレートに対してLMB 10 nM加え、6 wellのLMB添加プレート2とし、残りの6 wellのプレートに対してはLMBを加えず、6 wellのLMB無添加プレート2とし、次いで3時間静置した。以上のようにルシフェラーゼ遺伝子の遺伝子導入を行うことにより、MMP-9の産生とともにルシフェラーゼが産生することとなり、ルシフェラーゼによる発光反応における発光強度をマイクロプレスカウンターで測定することにより、MMP-9の産生をモニタ⁵ーすることができる。¹⁰

<ルシフェラーゼアッセイによる転写活性の測定>

ルシフェラーゼアッセイによる転写活性の測定を行った。ルシフェラーゼの活性は、ルシフェラーゼアッセイシステム (Luciferase assay system Promega社製) によって測定した。マイクロプレスカウンターとして、Microbeta (Perkin-Elmer社製) を用いた。測定は、6 wellのLMB添加プレート1、6 wellのLMB無添加プレート1、6 wellのLMB添加プレート2、及び6 wellのLMB無添加プレート2について、¹⁵それぞれ6 wellのプレートのうち3 wellのプレートを用いて12時間後の総転写活性を測定し、さらに、残りの3 wellのプレートを用いて24時間後の総転写活性を測定する測定方法とした。結果を図3 (A) 及び図3 (B) に示す。図3 (A) 及び図3 (B) において、上部の数値がKRE-M9を含むベクター1をHFKsに遺伝子導入した場合の総転写活性を示し、下部の数値がKRE-M9を含まないベクター2をHFKsに遺伝子導入した場合の総転写活性を示し、上部及び²⁰²⁵

下部の数値のうち、上段の数値はLMB 10 nM添加した場合を示し、下段の数値はLMBを添加しなかった場合を示し、数字はarbitrary unitによるものであり、3wellのプレートの平均値を示す。標準偏差をerror barで示す。

5

図3 (A) 及び図3 (B) の結果から、KRE-M9を含むベクター1をHFKsに遺伝子導入した場合において、総転写活性が遺伝子導入後12時間後、24時間後と時間を追って、総転写活性が増強し、且つ総転写活性はLMBを添加することによって、遺伝子導入後12時間後、
10 24時間後ともに、Promoter活性が、それぞれ、約5分の1、及び約7分の1に抑制された。また、KRE-M9を含まないベクター2をHFKsに遺伝子導入した場合においては、転写活性が全く検出されなかった。以上のことから、KRE-M9がMMP-9の転写活性を促進する上で重要であること、及びKRE-M9が、LMBが存在する
15 場合において、MMP-9の転写活性を阻害することを通じて、発現調節に働くことが示され、LMBがMMP-9の産生を阻害する薬剤として有効であることが支持された。

実施例12

20 <ヒト表皮角化細胞の培養>は、実施例11と同様に行った。また、MMP-9 promoter配列のKRE-M9を含んだー73から+16までの塩基配列、およびKRE-M9を含まないー56から+16までの塩基配列の代わりに、MMP-9 promoter配列のKRE-M9及びTPA responsive element (以下TREとも言う) を含んだー80から+16までの塩基配列1、および該塩基配列1においてKRE-M9配列が4塩基置換された塩基配列2、

並びに -7 1 4 から +1 6 までの塩基配列 3、該塩基配列 3において K R E - M 9 配列が 4 塩基置換された塩基配列 4、該塩基配列 4において T R E 配列が 3 塩基置換された塩基配列 5、及び該塩基配列 4において K R E - M 9 配列が 4 塩基置換され、且つ T R E 配列が 3 塩基置換された塩基配列 6 を用いた以外は、実施例 1 1 と同様に <ルシフェラーゼアッセイ測定用のベクター調製>を行った。K R E - M 9 配列の 4 塩基置換配列及び T R E 配列の 3 塩基置換配列を配列番号 5 及び 6 に示す。また、<遺伝子導入>及び<ルシフェラーゼアッセイによる転写活性の測定>も、総転写活性を遺伝子導入後 2 4 時間後に測定した以外は、実施例 1 1 と同様に行った。塩基配列 1 及び 2 を用いた場合の転写活性の測定結果、及び塩基配列 3 ~ 6 を用いた場合の転写活性の測定結果をそれぞれ図 4 (A) 及び図 4 (B) に示す。図 4 (A) の上部及び下部、並びに図 4 (B) の第 1 部～第 4 部は、それぞれ塩基配列 1 及び塩基配列 2、並びに塩基配列 1 ~ 4 を用いた場合の総転写活性を示し、上部及び下部の数値のうち、上段の数値は L M B 1 0 nM 添加した場合を示し、下段の数値は L M B を添加しなかった場合を示し、数字は arbitrary unit によるものであり、3 well のプレートの平均値を示す。標準偏差を error bar で示す。

また、K R E - M 9 配列を用いて調製した 2 本鎖DNA1、配列番号 5 に示す K R E - M 9 配列の 4 塩基置換配列を用いて調製した 2 本鎖DNA2 をコンペティター (competitor) として用い、³²Pで標識した K R E - M 9 配列及び K R E - M 9 配列の 4 塩基置換配列をプローブとして用いて実験を行った以外は、Kobayashi らの方法 (Kobayashi et al. (2001) EMB 0 Rep. 2, 604-608) に従って、ヒトケラチノサイト核タンパク質を用いたゲルシフトアッセイを行った。結果を図 4 (C) に示す。図 4 (C)

中で、右の三角矢印がプローブそのものが検出されたバンドを示し、左矢印がシフトしたバンドを示す。

図4（A）の結果から、塩基配列1のみならず、KRE-M9を4塩基置換した塩基配列2を用いた場合においても、LMBの添加によりMMP-9の転写活性が抑制されていることから、TRE及びKRE-M9を含んだ遺伝子領域においては、KRE-M9のみではなく、TREもMMP-9の転写活性の抑制にとって重要であることが示された。また、図4（B）の結果から、KRE-M9及びTREの双方を塩基置換して変異している塩基配列6を用いた場合においても、LMBの添加によりMMP-9の転写活性の抑制が起こっていることから、KRE-M9及びTRE以外の遺伝子領域も、LMBの添加によりMMP-9の転写活性を抑制することが示された。

図4（C）の結果から、KRE-M9プローブに対してヒトケラチノサイト核タンパク質が結合して得られた、シフトしたバンドが検出されている（図4（C）中左から第1段）。また、KRE-M9プローブを用いて、且つコンペティター（competitor）としてKRE-M9配列を用いて調製した2本鎖DNA1を用いた場合には、競合阻害により、シフトしたバンドが検出されなくなった。（図4（C）中左から第2段）さらに、KRE-M9プローブを用いて、且つコンペティター（competitor）としてKRE-M9配列の4塩基置換を用いて調製した2本鎖DNA2を用いた場合には、シフトしたバンドが検出されている（図4（C）中左から3段目）。加えて、配列番号5に示すKRE-M9配列の4塩基置換配列をプローブとして用いた場合には、シフトしたバンドは検出されていない。（図4（C）中右から2段）これらのことから、ヒトケラチノ

サイト核タンパク質は、K R E - M 9 配列に結合することがわかる。

実施例 13

ヘアレスマウス (H o s : H R - 1) の 8 週齢の雌 10 匹を、一週間
5 予備飼育した。5 匹のマウス (マウス A 1、マウス B 1、マウス C 1、
マウス D 1、マウス E 1) に対して紫外線 (ultraviolet B (U V B)) を背部に 300 mJ (約 3 MED (minimal erythema dose、最小紅斑量)) を照射し、5 匹のマウス (マ
ウス A 2、マウス B 2、マウス C 2、マウス D 2、マウス E 2) に対し
10 ては紫外線を照射しなかった。紫外線照射直後と紫外線照射 24 時間後
に、70% エタノールにレプトマイシン B を溶解させた溶液として、マ
ウス B 1 及びマウス B 2 に対して濃度 10 $\mu\text{g}/\text{ml}$ (20 μM) の溶
液を、マウス C 1 及びマウス C 2 に対して濃度 1 $\mu\text{g}/\text{ml}$ (2 μM)
の溶液を、マウス D 1 及びマウス D 2 に対して濃度 100 ng/ml (2
15 00 nM) の溶液を、マウス E 1、マウス E 2 に対して濃度 10 ng/
ml (20 nM) の溶液を、約 0.1 ml ずつ筆で外用塗布することに
よりレプトマイシン B を投与した。また、マウス A 1 及びマウス A 2 に
対して 70% エタノールを、約 0.1 ml 筆で塗布した。ついで、照射
48 時間後に紫外線照射したマウス A 1～マウス E 1 及び紫外線照射し
20 なかつたマウス A 2～マウス E 2 の皮膚を採取した。採取した皮膚をホ
ルマリン固定して、パラフィン包埋処理をしたのち、切片をヘマトキシ
リン・エオジン染色した。マウス A 1、マウス B 1、マウス C 1、マウ
ス D 1、及びマウス E 1 から採取し染色した皮膚の切片、並びにマウス
A 2、マウス B 2、マウス C 2、マウス D 2、及びマウス E 2 から採取
25 し染色した皮膚の切片を E C L I P S E E 1000 M 光学顕微鏡 (NIKON 社製) で観察した結果を図 5 に示す。図 5 において A 1～E 1

は、それぞれ、マウス A 1～マウス E 1 から採取し染色した皮膚の切片に対応し、A 2～E 2 は、それぞれ、マウス A 2～マウス E 2 から採取し染色した皮膚の切片に対応するものであり、バーの長さは 100 μm を示すものである。

5

図 5 の結果から、紫外線照射したマウス A 1 の皮膚では、表皮の角化異常、真皮および皮下組織の炎症性細胞湿润を生じるのに対して、紫外線を照射するとともにレプトマイシン B を外用投与したマウス B 1、マウス C 1、マウス D 1、及びマウス E 1 の皮膚では、濃度依存的に、表皮では正常の角化を示すようになり、真皮および皮下組織の炎症性細胞湿润も抑制されていくことを認めた。また、紫外線を照射しなかったマウス B 2、マウス C 2、マウス D 2、及びマウス E 2 の皮膚にレプトマイシン B を外用しても、有意な変化を認めなかった。このように、少なくとも、外用投与によって、皮膚の炎症を抑制することが確認され、種々の炎症性皮膚疾患、腫瘍にレプトマイシン B が有用であることが示された。

配列表フリーテキスト

配列番号 1～4 は、プライマーの配列を示し、配列番号 5 及び 6 は、
20 K R E - M 9 配列の 4 塩基置換配列及び T R E 配列の置換配列を示すものである。

産業上の利用可能性

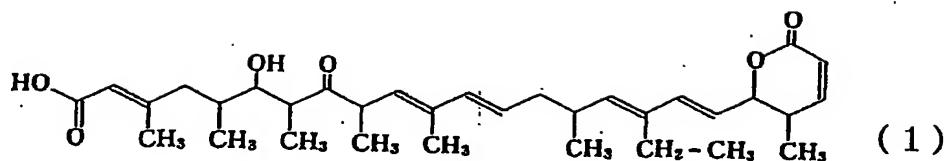
本発明の MMP - 9 の產生を阻害する薬剤は、MMP - 9 の產生を、
25 MMP - 2 と比較して、特異的に阻害でき、さらには、高濃度のカルシウムを添加することによる刺激又は T G F - β を添加することによる刺

激などの分化刺激を行う条件下、及びTNF- α を添加することによる
刺激又はIL-1 α を添加することによる刺激などの炎症惹起刺激を行
う条件下においてもMMP-9の産生を阻害することができる。

請求の範囲

1. 下記式(1) :

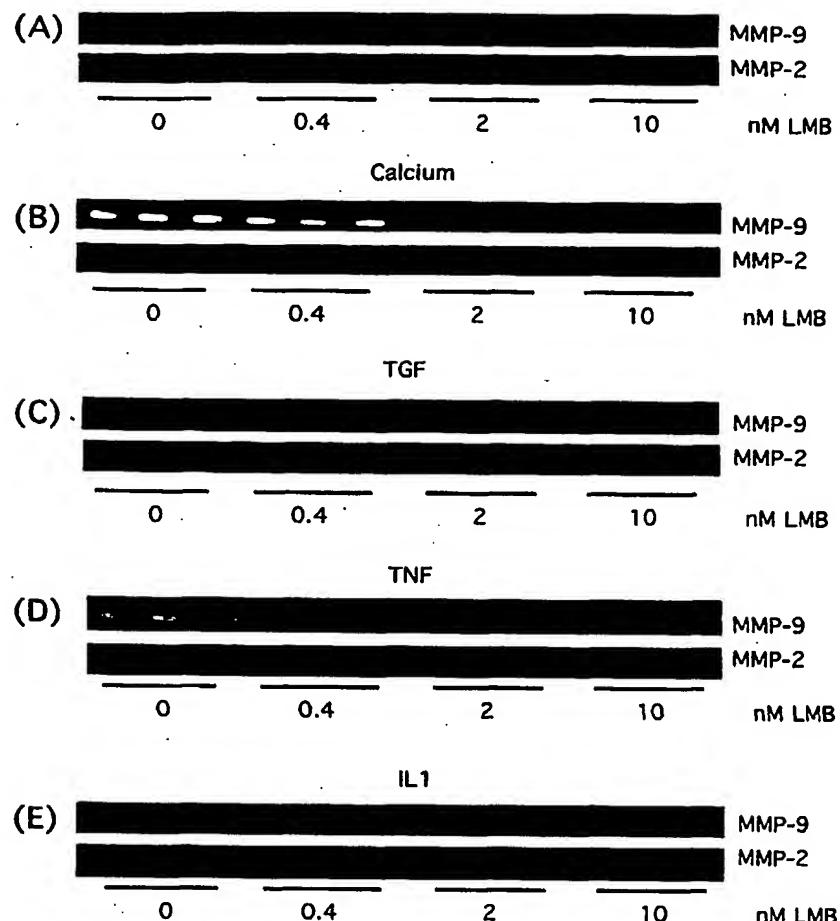
5



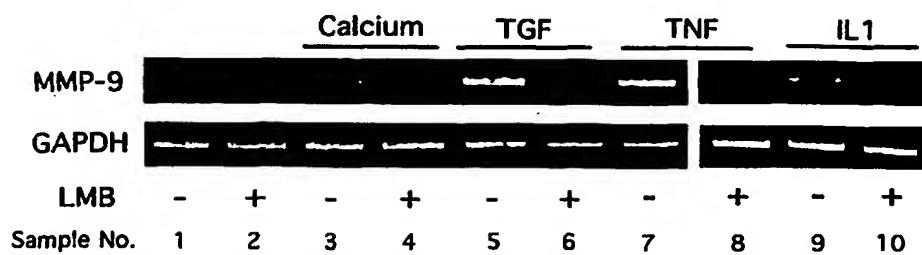
で示されるレプトマイシンB又はその誘導体を有効成分として含有する、マトリックスマタロプロテアーゼー9の産生を阻害するための薬剤。

- 10 2. マトリックスマタロプロテアーゼー9関連皮膚疾患の予防薬又は治療薬であることを特徴とする請求項1記載の薬剤。
 3. 前記予防薬又は治療薬が、その投与形態が皮膚外用剤であることを特徴とする請求項2記載の薬剤。

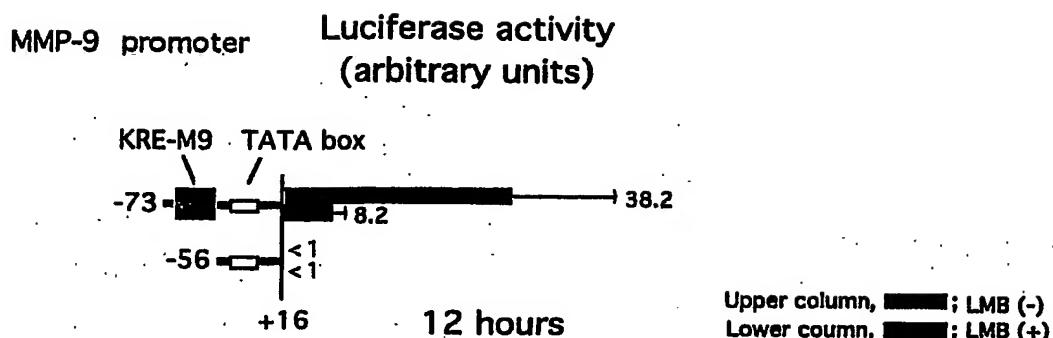
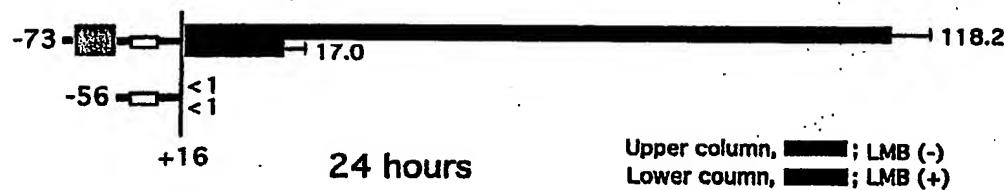
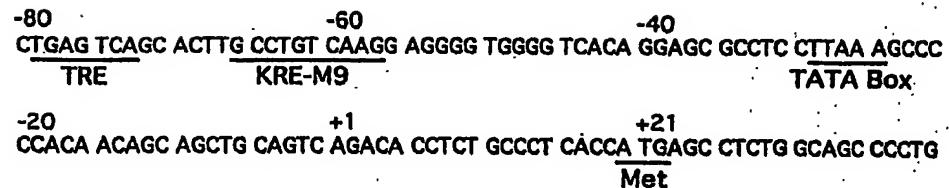
第1図



第2図

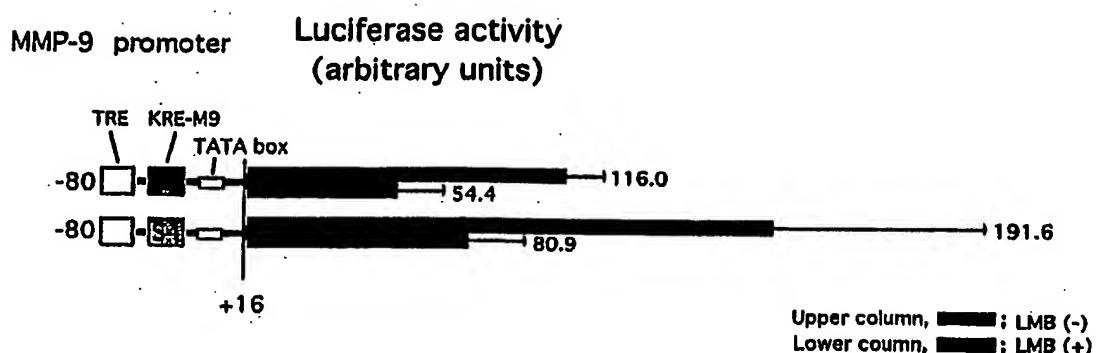


第3図

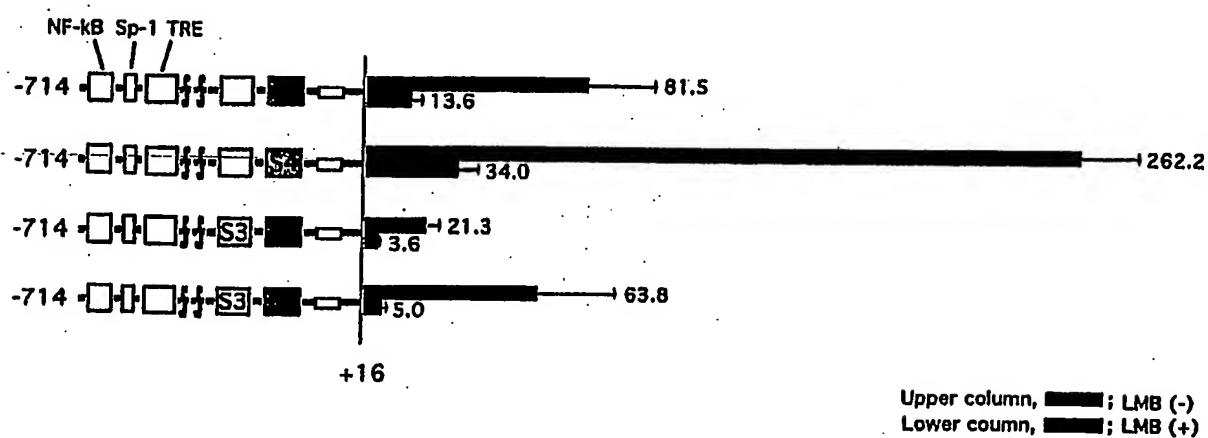
A**B****C**

第4図

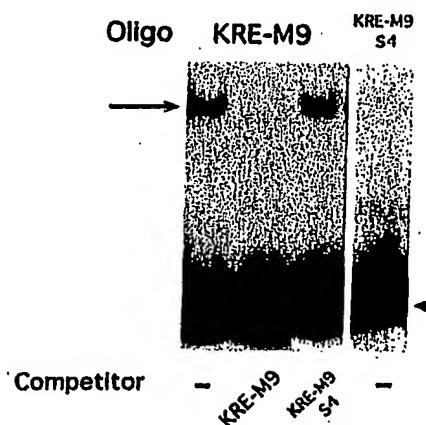
A



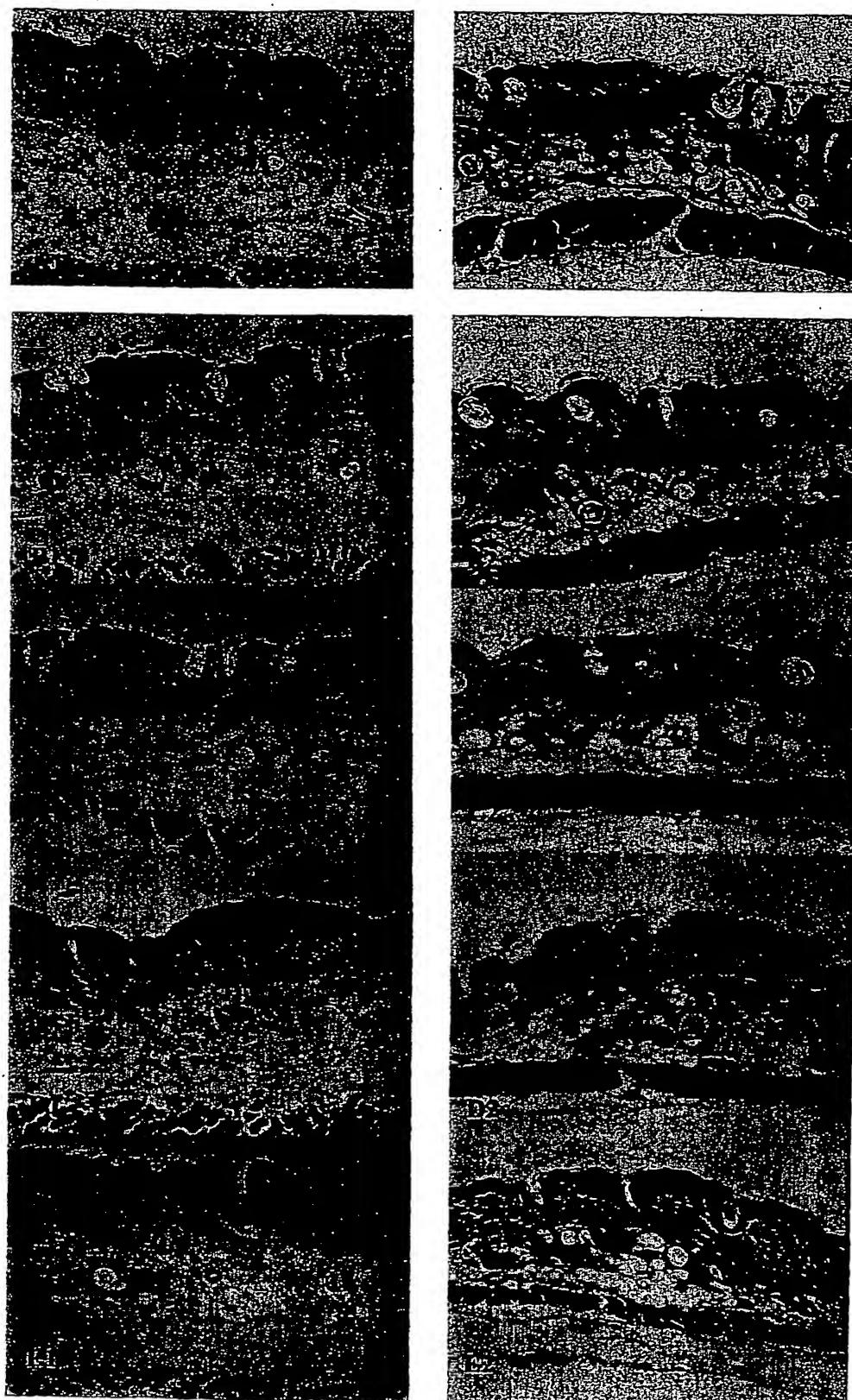
B



C



第5図



SEQUENCE LISTING

<110> Japan Science and Technology Agency
<120> Medicine for inhibiting production of MMP-9
<130> YG2003-36PCT
<150> JP2002/336867
<151> 2002-11-20
<150> JP2003/136738
<151> 2003-05-15
<150> JP2003/286386
<151> 2003-08-05
<160> 6
<170> PatentIn version 3.1
<210> 1
<211> 21
<212> DNA
<213> Artificial sequence
<220>
<223> PCR Primer
<400> 1
ggagacctga gaaccaatct c
21

<210> 2
<211> 21
<212> DNA
<213> Artificial sequence
<220>
<223> PCR Primer
<400> 2
tccaaatagg t gatgttgtcg t
21

<210> 3

<211> 20
<212> DNA
<213> Artificial sequence

<220>
<223> PCR Primer

<400> 3
gtcatccatg acaactttgg
20

<210> 4
<211> 20
<212> DNA
<213> Artificial sequence

<220>
<223> PCR Primer

<400> 4
tgctgttagcc aaattcgttg
20

<210> 5
<211> 10
<212> DNA
<213> HFKs

<400> 5
gaattccaag
10

<210> 6
<211> 7
<212> DNA
<213> HFKs

<400> 6
tgagcat
7

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP03/12898

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl' A61K31/351, A61K9/06, A61K9/10, A61P17/00, A61P35/00,
A61P43/00, C07D309/32

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl' A61K31/351, A61K9/06, A61K9/10, A61P17/00, A61P35/00,
A61P43/00, C07D309/32

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)
 CAPLUS (STN), CAOLD (STN), REGISTRY (STN), MEDLINE (STN), BIOSIS (STN),
 EMBASE (STN)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 8-239379 A (Kirin Brewery Co., Ltd.), 17 September, 1996 (17.09.96); Full text (Family: none)	1-3
X	JP 61-109717 A (Teruhiko BEFU), 28 May, 1986 (28.05.86); Full text; particularly, Claims (Family: none)	1, 2
X	JP 62-65692 A (SSP Co., Ltd.), 24 March, 1987 (24.03.87); Full text (Family: none)	1, 2

 Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier document but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
26 December, 2003 (26.12.03)

Date of mailing of the international search report
20 January, 2004 (20.01.04)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/EP03/12898

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 5-39283 A (Suntory Ltd.), 19 February, 1993 (19.02.93), Full text (Family: none)	1,2
X	JP 63-203676 A (Kirin Brewery Co., Ltd.), 23 August, 1988 (23.08.88), Full text (Family: none)	1,2
X	EP 139457 A2 (WARNER-LAMBERT CO.), 02 May, 1985 (02.05.85), Full text & JP 60-120874 A & AU 8432039 A & CA 1232852 A & DK 8404312 A & EP 8601953 A	1,2
A	KOIVUNEN, Erkki et al., Tumor targeting with a selective gelatinase inhibitor, NATURE BIOTECHNOLOGY, 1999, Vol.17, pages 768 to 774	1-3
A	WHITTAKER, Mark et al., Design and Therapeutic Application of Matrix Metalloproteinase Inhibitors, CHEMICAL REVIEWS, 1999, Vol.99, No.9, pages 2735 to 2776	1-3
A	MICHAELIDES, Michael R. et al., Recent Advances in Matrix Metalloproteinase Inhibitors Research, Current Pharmaceutical Design, 1999, Vol.5, pages 787 to 819	1-3

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int. Cl' A61K31/351, A61K9/06, A61K9/10, A61P17/00, A61P35/00, A61P43/00, C07D309/32

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int. Cl' A61K31/351, A61K9/06, A61K9/10, A61P17/00, A61P35/00, A61P43/00, C07D309/32

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

CAPLUS(STN), CAOLD(STN), REGISTRY(STN), MEDLINE(STN), BIOSIS(STN), EMBASE(STN)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	JP 8-239379 A (麒麟麦酒株式会社) 1996. 09. 17, 全文 (ファミリーなし)	1 - 3
X	JP 61-109717 A (別府輝彦) 1986. 05. 28, 全文、特に、特許請求 の範囲 (ファミリーなし)	1, 2
X	JP 62-65692 A (エスエス製薬株式会社) 1987. 03. 24, 全文 (ファミリーなし)	1, 2

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す
もの「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日
以後に公表されたもの「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行
日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する
文献（理由を付す）

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって
出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論
の理解のために引用するもの「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで發明
の新規性又は進歩性がないと考えられるもの「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以
上の文献との、当業者にとって自明である組合せに
よって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

26. 12. 03

国際調査報告の発送日

20. 1. 2004

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

新 留 素 子

4 P 2939



電話番号 03-3581-1101 内線 3490

C(続き)、関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	JP 5-39283 A (サントリー株式会社) 1993. 02. 19, 全文 (ファミリーなし)	1, 2
X	JP 63-203676 A (麒麟麦酒株式会社) 1988. 08. 23, 全文 (ファミリーなし)	1, 2
X	EP 139457 A2 (WARNER-LAMBERT COMPANY) 1985. 05. 02, 全文 & JP 60-120874 A & AU 8432039 A & CA 1232852 A & DK 8404312 A & ES 8601953 A	1, 2
A	KOIVUNEN, Erkki et al., Tumor targeting with a selective gelatinase inhibitor, NATURE BIOTECHNOLOGY, 1999, Vol. 17, pp. 768-774	1-3
A	WHITTAKER, Mark et al., Design and Therapeutic Application of Matrix Metalloproteinase Inhibitors, CHEMICAL REVIEWS, 1999, Vol. 99, No. 9, pp. 2735-2776	1-3
A	MICHAELIDES, Michael R. et al., Recent Advances in Matrix Metalloproteinase Inhibitors Research, Current Pharmaceutical Design, 1999, Vol. 5, pp. 787-819	1-3

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.